

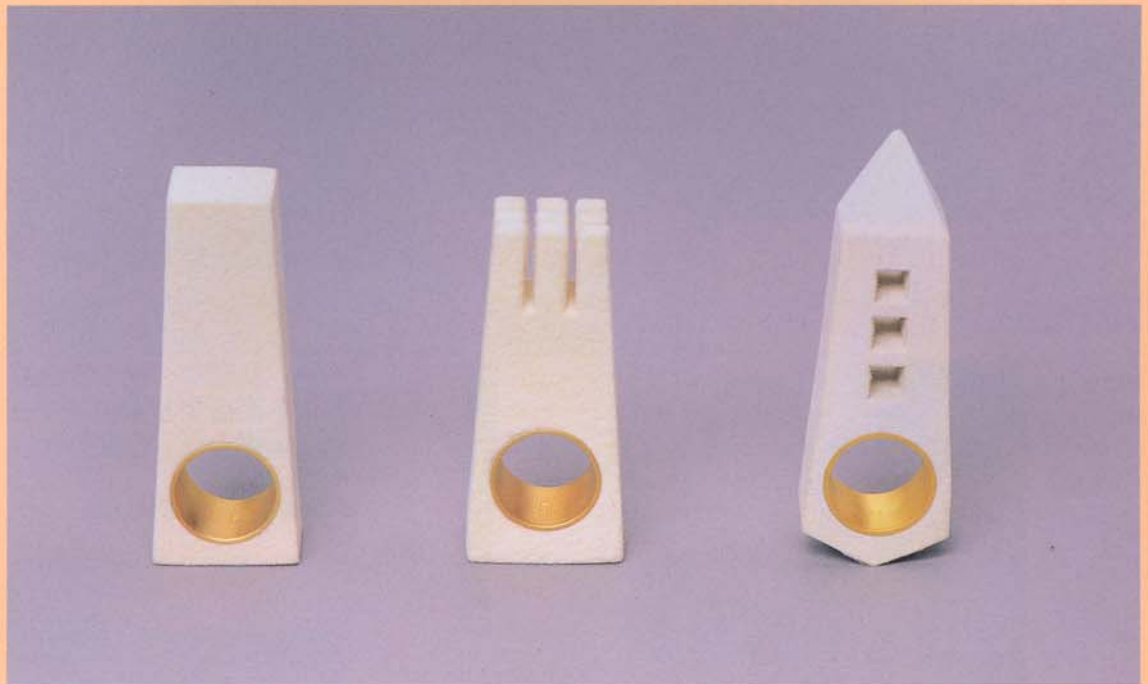
Tendence

"テンデンス'97"

このメッセの最大の楽しみは、一年分と云って良いほどの、沢山のジュウリー作家に出会えることです。1997年8月23日〜27日、ドイツ・フランクフルト国際見本市会場で開催された、秋季恒例の全消費財トレードフェア「テンデンス97」"TENDENCE"に、本誌記者もまた訪問しました。見本市の概要は、前12月号で書きましたので、ここでは、ここで見た、7人の最新作を紹介します。

この見本市は、国際展なので世界各国からの出展がありますが、ドイツ国内のジュウリー作家の場合、基本的にドイツ工芸協会の会員、つまりゲゼルシャフトであることが必要だそうです。ゲゼルシャフトになるには、師匠の元での2年間の修行が必要です。ゲゼルシャフトたちは、何かしらの、例えば、技術・技法・造形などに、独創性のあることが認められないとダメで、一人前の作家を名乗れないのだとか。だから、ドイツ作家の出展者に、一定のレベルが感じられ、それは同時に、本見本市を、ドイツが世界に誇るものの一つとしていることが、伺い知れます。いま一つ、特筆すべきは、デュッセルドルフ在住で、日本人のゲゼルシャフトが出展していたこと。主催者側からは、そろそろ、日本人のジュウリー作家も、海外見本市への出展を積極的に考えてみては、と、記者も同感。

フランクフルターメッセで出会った7人の個性



brooch and ring: silver·glass

3 finger-ring-objects: felt·K18



BERNHARD FRÜH

●ベルナルド・フリュー

建築的な造形を、金属はもちろん、フェルトなどを使い、オリジナルな空間につくりあげる。着けることを考えたオブジェクト



pierce: gold·Pt

cocoon-necklace: silver



ERICH ZIMMERMANN

●エリヒ・ツィーマーマン

まるで生き物のような丸っこいジュウリーは、“繭”がモチーフ。薄くのされたメタルワークに感じられるクラフトマンシップ